

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月3日現在

機関番号：82621

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22401021

研究課題名（和文） 明治期に海外流出した近代工芸作品の調査

研究課題名（英文） Research of overseas collections of Meiji export crafts

研究代表者

諸山 正則 (MOROYAMA MASANORI)

独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館工芸課主任研究員

研究者番号：30157945

研究成果の概要（和文）：2010年度にヨーロッパ各国の、2011年度にアメリカ各地の主要な美術館・博物館で、各館の協力を得て実地調査を行った。明治期に各国で開催された万国博覧会に関連し、またその後に形成された有力なコレクション等を中心とした各館の特色ある収蔵品の所在調査を行い主要な明治期の工芸作品を確認し、データの収集及び画像記録を作成した。それらの調査研究を論考としデータを整理統一して、報告書『明治期に流出した近代工芸作品の調査』に編集し発行した。

研究成果の概要（英文）：This research was made in the 2010 fiscal year every place of European countries and in the 2011 fiscal year of U.S. by obtaining cooperation from main art museum and museums. Whereabouts investigation of the characteristic collection of each mansion centering on the leading collection formed after that in relation to the world expositions held in each country at the Meiji era was conducted, the craft works of the Meiji era researched, and collection and picture record of data were created.

Those investigation researches were done each study, and arrangement unification was carried out, and data was edited into the report "Research of overseas collections of Meiji export crafts", and was published.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2011年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2012年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	8,300,000	2,490,000	10,790,000

研究分野：近代工芸史

科研費の分科・細目：美学、美術史

キーワード：美術史、工芸、明治、輸出工芸、万国博覧会

## 1. 研究開始当初の背景

明治期に入り日本新政府は、国策として主導的に殖産興業及び輸出の振興と外貨の獲得を推進するために万国博覧会等へ積極的に

賛同し、日本の優れた工芸作品を出品し、かつ膨大に欧米諸国へ輸出した。また直接に来日を果たした個人の美術愛好家らも大量の収集を行い、それらは日本の美術工芸におい

でもっとも重要なコレクションとして形成され、後年には各国の主要な美術館・博物館の収蔵品となって公開された。

そうして巻き起こった熱狂的な「ジャポニスム」のブームをとおして、近代日本を代表し得るほどの工芸作品が大量に海外流出した。しかし、それらが収蔵された欧米の主要な美術館・博物館のなかにはデータベース化が整備され公開もされていることはあるが、全国各地の美術館・博物館等の膨大な収蔵品の全体像とそれらの体系化はいまだ充分ではない。

## 2. 研究の目的

明治期に欧米の各地で開催された主要な万国博覧会等に関係するコレクションを収蔵する各美術館・博物館と協力して、近代工芸作品の所在及び実地の調査を実施し、画像を加えたデータベースとして統一された整理・充実を図る。その情報を共有することによって、近代工芸史劈頭の実像を記録し国内外での将来の研究に資する。

## 3. 研究の方法

(1)2010年度は、ロンドンやパリ、ウィーン等で開催された万国博覧会の現地を中心に、後年に形成されたコレクションを含めて、ヨーロッパの主要美術館・博物館で工芸作品の所在及び実地の調査を行った。イギリスでは、オックスフォードのアッシュモレアン・ミュージアムで漆器や陶磁器を、ロンドンの大英博物館では陶磁器を中心に七宝や漆器、金工品を調査し記録を作成した。フランスでは、パリのチェルヌスキ美術館で陶磁器等を、ギメ東洋美術館やパリ装飾美術館で陶磁器をはじめとする各種工芸作品の実地調査を行った。ドイツではハンブルグ工芸美術館やマインフランケン博物館で金工品や漆器、七宝を、チェコではプラハの国立美術館他で染織品や漆器、陶磁器等の調査を行った。オーストリアでは、日本政府が公式に参加したウィーン万国博覧会等に関連したものなどを、オーストリア応用美術館で陶磁器や金工品、漆器、七宝、ウィーン民族学博物館で金工品や陶磁器等を実地調査した。これらは、主要な美術館・博物館と調整し、各館の学芸員等の協力を得て作品の所在及び実地の調査を行った。作品の基本的なデータ及び画像を記録した。

(2)2011年度はフィラデルフィア万国博覧会をはじめセントルイス、シカゴ等の万国博覧会や、ヨーロッパの博覧会等でコレクションの基盤が形成されたアメリカ各地の主要美術館・博物館で工芸作品の所在及び実地の調

査を行った。

アメリカ東部では、フィラデルフィアで万国博覧会に関連した大量の収蔵品のなかから主要な金工品や陶磁器、七宝等を調査し、ボルチモアのウォルターズ美術館で陶磁器や漆器、七宝等の作品の所在確認と記録をとった。ワシントンのフリーア美術館で陶磁器と七宝を、国立自然史博物館でも膨大な収蔵品のなかから陶磁器と七宝に絞って実地の調査を行った。中部では、シカゴ万国博覧会に関連した膨大なコレクションで知られるシカゴのフィールド・ミュージアムで染織品や陶磁器、金工品、七宝、象牙等の各種工芸作品の所在調査と実地の記録を作成した。ミシガンのミシガン大学美術館はデータベース上で収蔵品の公開が成されているが、漆器や七宝等の実地調査を行った。テキサスのサン・アントニオ美術館で漆器を中心に金工品や磁器、七宝の優れた工芸収蔵品を調査した。西部では、シアトル・アジア美術館で陶磁器を中心に金工品を、ポートランド・アート・ミュージアムで漆器を、ロサンゼルス・カウンティ・ミュージアムで陶磁器と七宝を実地調査した。サンフランシスコ・アジア美術館で陶磁器や金工品、七宝の調査を行った。また前年度に調査を行ったイギリス・ロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート博物館は充実したデータベースが公開されているが、改めて同館の協力が得られて、金工品と漆器の優れた収蔵品の追加調査を実施し記録作成ができた。こうした主要美術館・博物館との連携・調整がかない、各館の学芸員等の協力を得て作品の所在及び実地の調査を行った。作品の基本的なデータ及び画像を記録した。

(3)2012年度は、2010年度のイギリス、フランス、ドイツ、チェコ等のヨーロッパ、2011年度のアメリア東部、中部、西部の各地の主要な美術館・博物館で実施した所在調査と実地で行った記録と画像作成を踏まえて、各調査担当が収集したデータを研究・整理してその特質を論考にまとめた。それと作品データとを編集し報告書『明治期に流出した近代工芸作品の調査』にまとめて発行するとともに、調査研究の成果を各研究機関と共有するやめのデータベース化を研究した。

(4)研究結果を報告書としてまとめ、関係する各機関へ配布した。

### ○イギリスにおける調査報告

大英博物館の明治工芸コレクションについて (唐澤昌宏)

アッシュモレアン・ミュージアムの収蔵の日本工芸品 (服部文隆)

### ○フランスにおける調査報告

チェルヌスキ美術館の日本陶磁コレクション

ョンについて（三上美和）  
パリ装飾美術館、ギメ東洋美術館、エヌリ  
ー美術館（北村仁美）

○ドイツ、チェコおよびオーストリアにおけ  
る調査報告（今井陽子）

○アメリカ東部における調査報告（諸山正  
則）

○アメリカ中部およびイギリスにおける調  
査報告（横溝曠子）

○アメリカ西海岸の明治工芸コレクション  
調査報告（木田拓也）

#### 4. 研究成果

(1) 欧米の主要な美術館・博物館において、  
明治期に開催された主要な万国博覧会出品  
及びその後形成された重要なコレクション  
について、膨大な収蔵作品のなかから主要  
なもの所在調査を総合的に実施し、統一さ  
れたデータ及び画像の記録が作成できた。美  
術館・博物館としての歴史あるいはコレク  
ション形成の歴史的差異や、収蔵作品の個別  
調査及び研究、データベース化の整備の進展と  
公開といった状況は各館でまったく異なっ  
た程度であったが、国を越えて、各館の学芸  
員と共同することによって日本の近代工芸  
に関する情報の共有と理解に向けて促進が  
なされた。

(2) 明治期に海外流出した日本の近代工芸作  
品の調査に基づいて、実地の所蔵調査と収蔵  
の記録調査、管理状況、作品の名称（諸外国  
語・日本語）と採寸、制作年の研究、銘の記  
録等の調査による具体的なデータを収集作  
成し、記録された画像を整理統合した。これ  
までに充分でなかった海外に流出した明治  
期工芸コレクションの全体像を把握するの  
に共有され得る情報として整備し、将来に向  
けた工芸作品の体系化を研究し検討した。ま  
た素材や作家別等のデータベースを構築し、  
その整備と充実によって国内外の美術館・博  
物館や研究機関等の研究者間での研究に資  
することを図った。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線）

〔学会発表〕（計 1 件）

東洋陶磁研究学会

「明治期に海外流出した近代工芸作品の調査」

2012 年 2 月 26 日

東京国立近代美術館講堂

イギリス 唐澤昌宏

フランス 北村仁美、三上美和

アメリカ（東部） 諸山正則

アメリカ（中部） 木田拓也

アメリカ（西部） 木田拓也

〔図書〕（計 1 件）

東京国立近代美術館工芸課編集・発行

報告書『明治期に流出した近代工芸作品の調査』

2013 年 3 月

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

諸山 正則 (MOROYAMA MASANORI)

独立行政法人国立美術館

東京国立近代美術館主任研究員

研究者番号：30157945

##### (2) 研究分担者

今井 陽子 (IMAI YOKO)

独立行政法人国立美術館

東京国立近代美術館主任研究員

研究者番号：60299871

唐澤 昌宏 (KARASAWA MASAHIRO)

独立行政法人国立美術館

東京国立近代美術館主任研究員

研究者番号：90370999

木田 拓也 (KIDA TAKUYA)

独立行政法人国立美術館

東京国立近代美術館主任研究員

研究者番号：40300694

北村 仁美 (KITAMURA HITOMI)

独立行政法人国立美術館

東京国立近代美術館主任研究員

研究者番号：20332140

横溝 曠子 (YOKOMIZO HIROKO)

国立大学法人東京藝術大学

大学美術館准教授

研究者番号：90205229

三上 美和 (MIKAMI MIWA)

京都造形芸術大学芸術学部

芸術表現アートプロデュース学科専任講  
師

研究者番号：90531640

金子 賢治 (KANEKO KENJI)

独立行政法人国立美術館

東京国立近代美術館工芸課客員研究員

研究者番号：20169569

内藤 裕子 (NAITO YUKO)

独立行政法人国立美術館  
東京国立近代美術館工芸課客員研究員  
研究者番号：20588438

(3) 研究協力者

服部 文隆 (HATTORI FUMITAKA)  
瀬戸市美術館館長  
瀬戸市交流活力部文化課課長補佐